

高齢者のコロナワクチン接種、5月開始で調整…全世代対象は9月から

2023/02/22 05:00 読売新聞

新型コロナウイルスワクチンの2023年度の接種について、厚生労働省は、高齢者など重症化リスクの高い人を対象に、5月をめどに先行して接種を始める調整に入った。全世代を対象にした接種は9月頃から始めることを想定する。22日に開く専門家分科会に提案し、3月上旬までの正式決定を目指す。

新型コロナワクチンは現在、無料で受けられる予防接種法上の「臨時接種」に位置づけられている。3月末に期限を迎えるが、厚労省は、24年3月末まで1年間延長する方向で検討している。

接種は、全世代を対象に秋から冬にかけて、年1回実施することを基本とする。年末年始に想定される感染拡大に備えるためだ。

高齢者や持病のある人などが、これよりも先行的に接種を受けられるようにするのは、夏にも感染が拡大する恐れがあり、その前に免疫を高めてもらう狙いがある。先行接種を受けた人たちは秋から冬にかけても、追加接種が可能になる見通しだ。

接種の目的は重症者を減らすこととし、当面は、オミクロン株と従来株にそれぞれ対応する成分を組み合わせた「2価ワクチン」を使う予定だ。

無料接種をめぐるっては、24年度以降は、接種を受ける人に自己負担が生じる可能性がある「定期接種」に移行する案が出ている。厚労省は、ワクチンの効果や感染状況などを踏まえて、23年度中に議論を進める方針だ。

コロナ飲み薬ゾコーバ服用で「後遺症の割合低減」…塩野義が研究結果発表



塩野義製薬のコロナ飲み薬「ゾコーバ」

塩野義製薬は22日、新型コロナウイルス感染症の飲み薬「ゾコーバ」について、服用した患者はそうでない患者に比べて、後遺症が現れる割合が低く抑えられたとする研究結果を明らかにした。倦怠けんたい感や味覚異常は半分程度、思考力の低下や不眠といった神経系の症状も3割超の差が確認できたという。米国で開催中の感染症の国際学会で発表した。研究では、塩野義が昨秋まで実施したゾコーバの臨床試験の参加者を追跡調査し、1～6か月後に後遺症の有無を尋ねた。

せきや倦怠感、味覚・嗅覚異常などの14症状のうち、一つでも症状があると答えたのは、偽薬（プラセボ）を投与した患者グループが2

6%だったのに対し、発症後5日以内にゾコーバを飲んだグループは14%だった。

集中力や思考力の低下、物忘れ、不眠といった神経系の症状については、偽薬の場合は44%が症状があると回答し、ゾコーバは29%にとどまった。

新型コロナの後遺症は1年以上続くこともあり、社会生活への影響も懸念されている。塩野義は「ゾコーバは後遺症のリスクを低減できる可能性がある」としている。